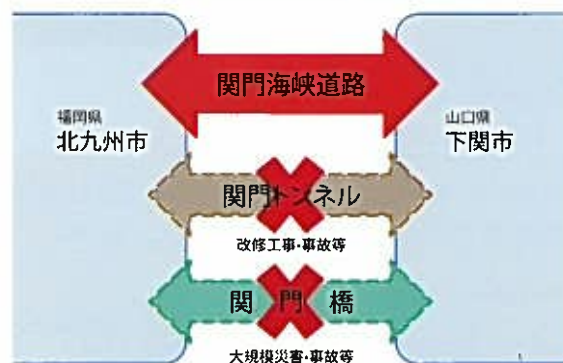


◆ 関門海峡道路は、どんな道路ですか？



- 関門海峡道路は、本州と九州をつなぐ新たな幹線道路ネットワークとして、関門地域を一体化する都市間連絡道路として、広域的な連携を支えるとともに、アジアとの交易を中心とした国際物流拠点の形成に大きく寄与します。
- 計画する区域については、利便性や土地利用との整合等より、下関市彦島～北九州市小倉付近を結ぶ区域が望ましいとされています。
- 関門橋(1973年開通)や関門国道トンネル(1958年開通)に対するリダンダンシー(大規模災害時等における代替機能)の確保の観点からも、重要な役割を担う道路です。

リダンダンシー概念図



関門橋及び関門トンネルにおける通行止め回数

	関門橋	関門トンネル
平成20年度	5	212
平成21年度	3	106
平成22年度	0	140
平成23年度	0	237
平成24年度	0	209

○年度は4月1日～翌年3月31日までの1年間とします。
 ○通行止めの回数は、規制時間にかかわらず規制をかけた回数としています。
 【工事等に伴う長時間(数日間)規制も途中開放がなければ1回、落下物除去など一時的(10分程度)な規制も1回と数えます。】

◆ 本資料に関するお問い合わせ (関門海峡道路整備促進期成同盟会)

福岡県県土整備部道路建設課	TEL.092-643-3660
山口県土木建築部道路建設課	TEL.083-933-3714
北九州市建築都市局計画部都市交通政策課	TEL.093-582-2518
下関市都市整備部都市計画課	TEL.083-231-1932

下関 関門

関門地域の未来をつなぐ

関門海峡道路

北九州



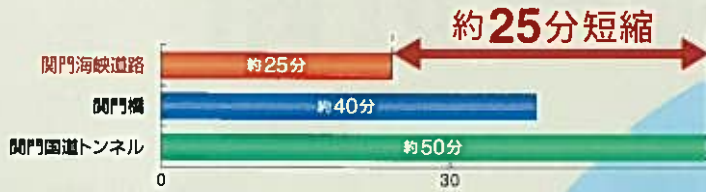
平成25年3月
 関門海峡道路整備促進期成同盟会

◆ 関門海峡道路ができると、こんな効果が期待できます。

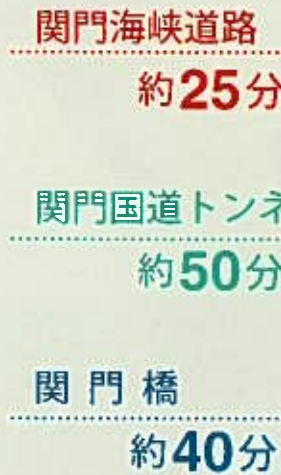
所要時間が短縮し、住民の生活の利便性が向上します。

- 関門海峡道路を利用することにより、下関市～北九州市の所要時間は、最大で約25分短縮されて、約25分になると見込まれています。
- また、交通の転換により、交通混雑の緩和等が期待され、住民生活の利便性の向上が図られます。

■ 下関市～北九州市間の所要時間の比較



■ 下関市～北九州市間の所要時間のルート比較



※所要時間は、両市役所間で算出(推計値) | 資料:国土交通省資料をもとに作製

広域的な観光ルートが形成され、観光産業の活性化が期待できます。

- 関門地域には、海峡に面する地域的特性を活かした魅力ある観光資源が集積しています。
- 関門海峡道路により、関門地域を拠点とした広域的な周遊観光ルートが形成され、観光ポテンシャルが期待されます。
- 下関と北九州の地域連携強化を図ることで、日本を代表する観光地としてアピール力の強化に繋がります。

■ 広域な周遊観光への期待

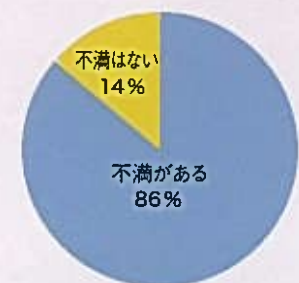


広域的な周遊観光を支える道路ネットワーク



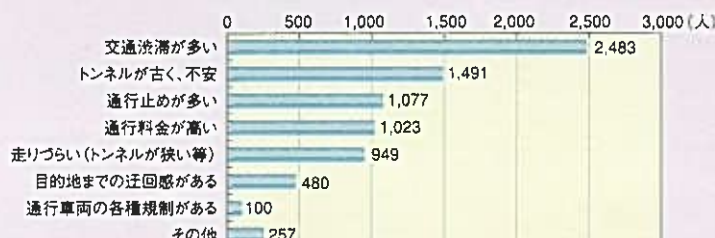
関門国道トンネル利用者の声 (関門国道トンネルに対する不満)

- 関門トンネルに対して「不満がある」利用者は全体の86%を占めています。そのうち、不満な理由では「交通渋滞が多い」2,483人と最も多くなっています。



■ 関門トンネルに対する不満

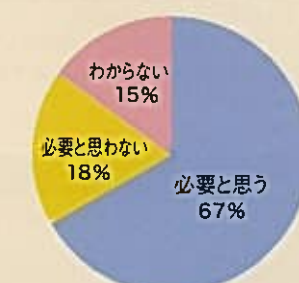
■ 関門トンネルに対する不満の理由 (複数回答)



資料:関門国道トンネル利用者アンケート調査(平成19年2月)

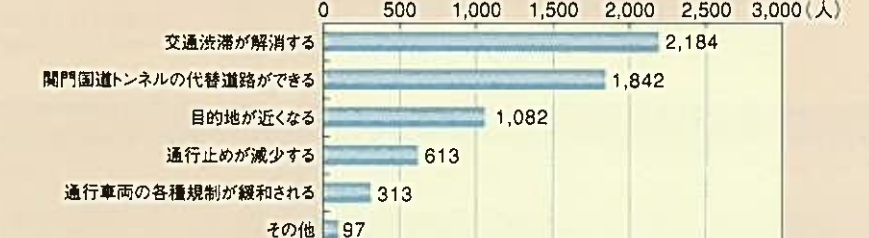
関門国道トンネル利用者の声 (関門海峡道路への期待)

- 関門海峡道路の必要性について、「必要と思う」との回答が全体の67%を占めています。そのうち主な理由としては「交通渋滞が解消する」2,184人、「関門トンネルの代替道路ができる」1,842人となっています。



■ 関門海峡道路の必要性

■ 関門海峡道路が必要な理由 (複数回答)



資料:関門国道トンネル利用者アンケート調査(平成19年2月)